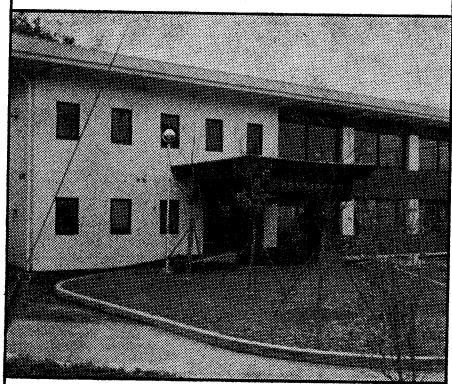


## 心やすらぐ 場所をめざして

二本松市立図書館長

山本敏夫



### 図書館コーナー

動文庫室」がつくられている。これは移動図書館の「基地」で、B・M用の図書を収容し、その整備を行う作業室となる。

二本松市は市街地以外の市域住民に対する図書館サービスを重視し、五十八年度から図書館車を購入し、巡回活動を開始することに決定した。目下その準備を着々と進めている。いうまでもないが距離その他の障壁のため本館は我々図書館職員の永くせつなく待ち利用の困難な市民への読書の機会を積極的に提供しようとするものである。経験上B・Mを備えるとそれは本館の利用をたかるそうであるから、新館B・Mと二年連続の施策は二本松市の読書熱をめざしましくあることになりそうである。

二本松市立図書館の今後の展望としては、さきにその一端を記したが、内部資料の充実とともに従来利用するとのできなかつた図書館システムの効用そのものを、多数の市民に味わって頂きたいという願いも、その一つである。

二本松市立図書館の今後の展望としては、さきにその一端を記したが、内部資料の充実とともに従来利用するとのできなかつた図書館システムの効用そのものを、多数の市民に味わって頂きたいという願いも、その一つである。

つまり、いわゆる「ほん」以外の新聞・諸刊行物・郷土のデータなどもそらであるが、静かな環境で、かけ心地のよい椅子やどつしりした机、広い閲覧室の快適なムードを楽しむことのできる図書館でありたい。人間生活の内面と外面との双方で、古い言葉だが安ら命が怪しくなっている現今、図書館は心やすらぐ場所の一つでもありたいと願って、職員一丸となつて努力をしている今日である。

二本松市立図書館は昭和五十七年八月一日開館した。福島県の十市二町の図書館の中では、最後尾として登場した。勿論県内では最近続々図書館を設置しようという気運が見られるところである。「図書館」の名は冠せなくとも各地の公民館図書館は、全く同様の活動を行っているが、二本松市も開館まで公民館が実質図書館の仕事を続けて来ていた。中央公民館と五か所の分館がそれである。

新図書館は各館より郷土資料他若干の図書を移管し、新購入分を加えて発足した。各公民館はなお従来の図書室業務を継続してゆくことになる。新図書館は、いわば各公民館の申し子である。

さて新館の外観・内容は重厚華麗であるが、一面図書資料の充実は今後に

〔登録者数〕		(57. 8. 1 ~ 58. 3. 31)					
〔登録者数〕		一般	児童	計	人	人	人
一般	(成人・高中生)	1, 0 8 2	1, 1 4 0	2, 2 2 2	人	人	人
児童	(小学生・幼児)	1, 1 4 0	2, 2 2 2	1, 2, 5 1 1 1	人	人	人
計				2, 2, 6 2 2	冊	冊	冊
〔入館者数〕		一般	児童	計	人	人	人
一般		1, 2, 5 1 1 1	2, 2 8 1	1, 2, 5 1 1 1	人	人	人
児童		1, 0 5 4 0	2, 6 0 2	1, 0 5 4 0	人	人	人
計		2, 2, 6 2 2	2, 6, 4 0 2	2, 2, 6 2 2	冊	冊	冊
〔貸出冊数〕		一般	児童	計	冊	冊	冊
一般		1, 1 2 1	1, 2 8 1	1, 1 2 1	冊	冊	冊
児童		1, 5 4 0	2, 6 0 2	1, 5 4 0	冊	冊	冊
計		2, 6, 4 0 2	2, 6, 4 0 2	2, 6, 4 0 2	冊	冊	冊